

本試験は、サーチドッグ認定審査を受験する上で必要な環境への適応性と基本的な服従性ならびに搜索能力を有したサーチドッグとしての適性を審査するものである。受験資格は、犬の月齢は10カ月以上とし、ハンドラーは18歳以上で搜索活動に支障なく従事できる健康な状態であること。

### 【 オビディエンス課目共通規定 】

本試験は試験が開催される指定環境下(以下「環境下」と表記する)で全ての課目は紐なしで行われ各課目の開始と終了は脚側停座(以下「基本姿勢」と表記する)をとる。

#### I. 環境下での歩行

審査員の指示により犬に基本姿勢をとらせ1辺10m以上の直線と右折と左折を含む2回以上の屈折及び1回以上のターンを伴うコースを常歩で進み、ターン後は速歩で進みスタート地点まで戻った後に基本姿勢をとらせ終了する。

#### II. 環境刺激に対しての順応性と対応

審査員の指示により犬に基本姿勢をとらせ、審査員の指示で常歩により歩行を開始し偶発的に表れる第三者及び他の犬とのすれ違いを行う。

すれ違いの際に審査員の指示により一旦停止し、約5秒後に審査員の指示により歩行を再開し審査員の指示により犬に基本姿勢をとらせ終了する。

#### III. 環境下での呼び戻し

審査員の指示により基本姿勢をとらせた後、ハンドラーは犬より約15歩離れ、審査員の指示により犬を呼び戻し基本姿勢をとらせて終了する。

#### IV. 環境下での休止

審査員の指示により基本姿勢をとらせた後に犬に休止姿勢をとらせる。

ハンドラーは犬から約15歩離れ距離を維持したまま犬に3分以上の休止をさせた後、ハンドラーは犬のもとに戻り基本姿勢をとらせ終了する。

### 【オビディエンス作業評価方法】

1. ハンドラーへの信頼性・服従性と作業意欲ならびに実行性が評価される。
2. 課目ごとに声視符は認められる。
3. 作業中の逸走ならびコントロール不可と審査員が判断した場合、審査は中止される。
4. 犬の健康面に異常があると認められた場合、審査は中止される。
5. 合否は5段階評価とし V(96.5~)SG(95.5~90)G(89.5~80)B(79.5~70)を合格とし M(69.5~)を不合格とする。
6. 1課目でもM評価がある場合は、不合格とする。
7. 休止姿勢は、任意で決める事ができるが半径2m以上逸脱した場合は失格とする。
8. 全ての課目においてロングリードの装着が必要な場合は認定審査部で決定する。

## 【 搜索課目規定 】

本試験は試験が開催される指定環境下でサーチドッグのカテゴリー別に設定された基本的な搜索能力を審査する。

### (1) エアセントドッグ

指定エリア内で1名のヘルパーを搜索し告知をさせる。

- ① ヘルパーはスタート地点より10m以上離れた地点に犬が直接接触する事ができないように何らかの遮蔽物の中に配置する。
- ② 審査員の指示により犬に搜索を命じ犬はヘルパーに到達後、速やかに告知をしなければならない。
- ③ ハンドラーは犬が告知したことを審査員に申告し、審査員の指示により犬の後方まで近づき呼び戻し脚側停座をさせ終わる。

※1 ロングリードの装着は任意とする。

※2 全ての作業においてヘルパーはモチベーターを所持しないが、③の作業終了後にサポーターがヘルパーにモチベーターを渡し再度、告知をさせ犬にモチベーターを与える事ができる。

※3 犬の告知方法は任意で決める事ができるがスクラッチは認められない。  
上記の※1～※3は試験開始前に審査員に申告をしておかなければならない。

### (2) トレーリングドッグ

環境下において定められた距離及び経過時間後の臭跡を検索し1名のヘルパーを発見告知させる。

- ① トレール距離は検索方向が決められたスタート地点より約300mとする。
- ② 経過時間はヘルパーがスタート地点から移動を開始してから30分以上とする。
- ③ スタート地点には密閉袋に入れられたヘルパーの物品を置きハンドラーは犬に物品の臭いを嗅がせた後にトレールを開始する。
- ④ トレールには2か所の屈折を設け屈折地点には、それぞれ物品を置くが屈折方向は示さないものとする。
- ⑤ トレールには市街地道路・公園並びに植物の生えている地表など複数の地表条件を含ませる。
- ⑥ 犬がトレールを離脱して誤った方向に進んだ場合は、2回を限度として約10m離れた地点で審査員が軌道修正を促す事とし、犬が正しい方向を判断できる十分な時間を与える。
- ⑦ ヘルパー到達の際の告知方法は、事前に申告をする。

※1 全ての作業においてヘルパーは、モチベーターを所持しないが犬がヘルパー到達後にサポーターがヘルパーにモチベーターを渡し再度、告知をさせ犬にモチベーターを与える事ができる。

※2 犬の告知方法は任意で決める事ができるがスクラッチは認められない。  
上記の※1～※2は試験開始前に審査員に申告をしておかなければならない。

(3) HRDサーチドッグ

環境下におけるオブジェクトサーチとエリアサーチの2つのカテゴリの検索を行い原臭に対して告知をさせる。

【オブジェクトサーチ】

- ① 7個のオブジェクトを使用し、オブジェクト間は90cm以上の間隔とする。
- ② 7個のオブジェクトに1か所だけ原臭を設置し、告知させる。
- ③ スタートは原臭を設置してから10分後とする。
- ④ 告知方法は、事前に申告するがスクラッチは認められない。
- ⑤ 全ての作業はオンリードで行われる。

※オブジェクト：ブロック・缶・プラスチック容器等々の選択された何れかのオブジェクトが使用される。

【エリアサーチ】

- ① 検索対象エリアは土や砂地及び草地在り、面積は約200㎡とする。
- ② 原臭は、2か所設置され、土や植物で覆われた状態で地表にある。
- ③ スタートは原臭を設置してから10分以上経過後とする。
- ④ 告知方法は、事前に申告するがスクラッチは認められない。
- ⑤ 全ての作業はオンリードで行われる。

